

1月28日、衆院に原子力問題調査特別委員会が設置された。国会事故調から7カ月超、第一歩として提言実施計画の策定と公表が待たれる。

事故調では調査統括補佐としてさまざまな「事実」を目の当たりにした。問題は山積している。3・11が見せた国の実態、失った国の信用をどう直視し再建するのか。国権の最高機関は緒に就いたばかりだ。

耳触りの良い掛け声とは裏腹に、将来世代がこの国に住み続ける合理性が加速度的に失われつつある。危機感は募るばかりだ。行くべき道は反省すべき事実をなかつたことにすることではあるまい。出発点とすることこそが国民と世界の国家に対する信頼を再建する道だ。報告書は言う。「福島原子力発電所事故は終わっていない。不断の改革の努力を尽くすことこそが国民から未来を託された国会議員、国民一人一人の使命であると当委員会は確信する」

それは将来世代が愛する国を選択する際に、この国が俎上に残るための必要条件だ。道程を正しく伝え残す責任は重い。貴誌の邁進を期待する。クロト・パートナーズ代表 石橋哲

from Editor

2月12日の衆院予算委。民主党の辻元清美議員の質疑は見応えがあった。東電が昨年2月、国会事故調に「今は真つ暗」と虚偽の説明を行い、福島第一原発1号機への現地調査を妨げた真相に迫った。東電の廣瀬直己社長は、事故調の窓口を務めた企画部の玉井俊光担当部長が「全く上司に相談せず、本人の思い込みで間違つた説明をした」と、全責任を部下に押し付け

る答弁を行った。玉井氏は1989年入社。大学で電気を専攻し、社内では「計装」(原発プラント制御)の専門家として柏崎刈羽原発の技術統括部長などを務め、事故発生後に企画部に転じ、事故調査窓口となった。監督官庁(経産省)対応が本務の企画部は、文系キャリアの精鋭が集まる企業防衛の中核。当時の勝俣恒久会長は企画部出身。その直系で社長候補の村松衛氏が執行役企画部長(現企画・広報担当常務執行役)を務めていた。技術屋の担当部長は、司

某月風紋

令塔が命ずるままに動く「コマ」にすぎないことは、「上意下達」の東電では当たり前の話だ。広報部は「何らかの意図を持って虚偽の報告をしたわけではない」と、誰も信用しないコメントを出したが、その責任者もまた村松常務である。玉井氏は「軽率なうっかり者」に仕立て上げ、幕引きを図る目論見が丸見えだ。結局、辻元氏が玉井氏の国会招致を求め、理事会で協議すること。

この問題の告発者である伊藤良徳弁護士(元国会事故調協力調査員)は「東電は確信的なウソつき」と断じ、「机上のつじつま合わせで考えて、無責任で不自然なストーリーを社長に吹き込んだ連中の愚かさを見るにつけ、そしてこんな不自然なストーリーを聞かされて、そのまま国会で答弁する社長の理解能力と神経を見るにつけ、東電は上から下まで劣化している」と慨嘆する。「部下は捨て駒」の司令塔こそ、国会に呼ぶべきだ。(宮)



今月の表紙「白亜地の奥の瞳」(2009年 青布、白亜地、透明水彩、アクリル樹脂)

FACTA
3月号

FACTA 通巻83号
2013年2月20日発行
年間購読料13200円
分売定価13000円(本体1238円)

発行人兼編集主幹/阿部重夫
編集人/宮嶋巖
編集/和田紀史 上野真理子
ウェブ編集・営業企画/高野聖玄
販売・営業企画/
大口紀子 柳下聡子 鈴木美香
総務/江藤伸子
印刷所/凸版印刷株式会社
発行所/ファクタ出版株式会社
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町
3-28-71603
電話 03-5282-17044(代)
Fax 03-5282-10955
購読申し込み・問い合わせ先/
電話 03-5282-7166
Fax 03-5282-0966
ウェブ <http://facta.co.jp>

●本誌は読者のお手元に直接お届けする年間予約購読制の雑誌です。原則として書店ではお求めになれません。定期購読をお勧めします。
お手続きは表IIIをご覧ください。乱丁・落丁本はお取り替えします。